

悩み、夫と根気よく話す

主夫、外国人夫婦、専業主婦、働く妻、働く夫…。日本の家庭生活を、様々な人が担い始めている。なかには、主婦の役割をもっと評価してほしい、あるいは、外で働きたいが踏み切れないといった悩みを抱える人も多い。彼らを支える輪も広がる。

東京都に住む^{わたなべみえ}渡辺美恵（59）は昨年、NPO法人「生活企画ジェフリー」を立ち上げた。目指すのは「男も女も苦しくならない夫婦関係」。月1回の「しゃべり場」には5、6人が参加。互いに話し、聴き、対話の技術をみがく。

美恵は、郷里の群馬県の学習塾で一緒だった和文（58）と結婚。「嫁」の役回りを期待され、同居した義母は認知症に。子ども2人は受験、和文は単身赴任。美恵は1人で追いつめられた。

92年に育児休業法ができ、男性も育休を取れるようになった。和文がある時、「会社で同僚と『最初に育休を取る男の顔が見たい』と笑ったんだよ」と言った。「なぜ笑うの」。美恵は怒った。

単身赴任から帰る夫を、たびたび喫茶店に誘い、根気よく悩みを話した。「次第に妻の考えがわかってきた」と和文。母の死後、和文は家事を楽しんでするように。美恵はフリーの編集者になる。

04年に美恵ら女性5人でジェフリーをつくると、このうち4人の頼みで、和文ら夫たちも理事になった。「男らしさ」について報告書を作り、夫の1人はそれを知人の結婚式で配った。和文も会社役員の経験を運営に生かす。

「何事も夫との対話から」と美恵。「家庭から地域に向けて発信するのも大切だよ」と和文。

・・・・・・・・・・以下、省略